

ベルギー，王立図書館所蔵メーテルランク新資料の発見 及び草稿の判読と転写

内田 智秀

フランス文学専門 後期課程 2年

2007年2月26日から3月16日の3週間、ベルギーの首都ブリュッセルにあるアルベール一世王立図書館(Bibliothèque royale de Belgique 以下王立図書館)で調査を行った。

王立図書館にはモーリス・メーテルランク(Maurice Maeterlicnk, 1862-1949)の青年期から死に至るまでの70年近くにわたる草稿や書簡類を多数所蔵している。本調査はその膨大な資料の中から1908年にモスクワで初演された『青い鳥(L'Oiseau bleu)』の草稿を見つけ出し、判読および転写を行うことを目的としている。

我が国で『青い鳥』は非常に有名な作品である。しかしフランス、ベルギーでは主にそれ以前の『マレーヌ姫』、『ペレアスとメリザンド』や『闖入者』などメーテルランク自身がいう「初期劇作品」が注目されている。その理由として上演が難しいとされる象徴派劇作品の中で、彼は多くの作品を完成させ、また上演の度に成功を取めているのが大きな理由といえよう。そのため、現在出版されているメーテルランクに関わる出版物は主にこの初期の劇作品、あるいは当時の彼の哲学的エッセイを中心にしており、『青い鳥』が取り上げられることは少ない。

また『青い鳥』を取り上げる研究書も、ロンドン初演の1909年から彼の死後数年 A に主に集中しており、草稿や書簡がメーテルランク、あるいは妻のルネ・ダオンの手元にある時の書である。内容も作品解釈が中心で、実証的な資料を踏まえた研究がほとんど行われていなかった。それにも関わらずメーテルランクの『青い鳥』の研究は現在に至るまで非常に少ない。そこにこの調査を行う意義はある。

実証的なデータが乏しい『青い鳥』だが、先行研究により以下のことが通説となっている。1つは彼の内縁の妻であったジョルジュ・ルブランの1931年に出版された『回想録(Souvenirs)』により、この作品がもともと「クリスマス話」として依頼されたものであること。そして1905年から翌年の1906年の間に行われたということである。しかしこの執筆時期を裏付ける資料はメーテルランクの手紙のみである。また「クリスマス話」であったのかどうかもジョルジュ・ルブランの記述のみであり、それ以外の物的証拠により今も証明されていない。さらに今回の調査でこの『回想録』に対してメーテルランクは出版停止こそ求めなかったが、かなりいらだっていたことが書簡からわかっている。ただこれ以外の資料が発表され



アルベール一世王立図書館
(Boulevard de l'Empereur 4
1000 Bruxelles)



ARCHIVE & MUSÉE
DE LA LITTÉRATURE
(王立図書館3階、以下 A.M.L.)



A.M.L. 内部 1



A.M.L. 内部 2

ていない現段階では、まずはこれらの資料が実証済みとした上で進めることにした。そこで1905年を中心に調査することで、『青い鳥』の断片を見つけることができるのではないかと考えた。

調査を初めてすぐに『青い鳥』の草稿を発見した。1905年の手帳 (*Agenda 1905*) の2月19日に「夢幻劇青い鳥 (*Féerie L'Oiseau bleu*)」というタイトルと共にシナリオが始まっているからだ。このタイトルが決められた上で、草案作りが行われたものなのか、あるいは草案ができあがる過程で決まっていたのかは今後の課題として、この2月19日からメーテルランクが書き始めているのは確かである。ただ手帳には2月19日から書き始められているが、メーテルランクが携帯用として便利な大きさであったために用いたのであって、手帳本来の役割を一切果たしていない。したがってこの2月19日という日付も、執筆開始時期を割り出す手がかりとはならないことを付け加えておく。

この手帳を判読した後、この状態に近い状態での転写を行った。なお左に記した番号は付属する註のために便宜上用いたものであり、草稿との関係は一切ない。

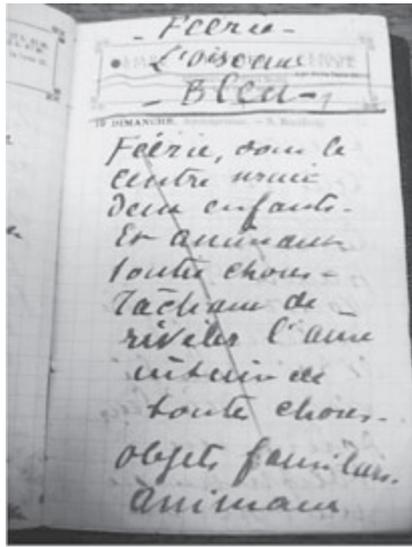
『青い鳥』の草案であるこの手帳には彼自身がナンバリングをしている。途中『青い鳥』とは異なるドラマの主題が記されているが、289まで記されている。王立図書館の図書カードにはさらに同年11月の手帳も存在しており、そこには“Notes de L'Oiseau bleu”と記されている。この手帳は1ヶ月用のコンパクトなもので、33頁で構成されている。これも草案となっている。王立図書館の図書カードにはこれ以外の『青い鳥』の草稿に関する注は記されていない。したがってこの後は調査人である内田自身が調べなければなら

ない。

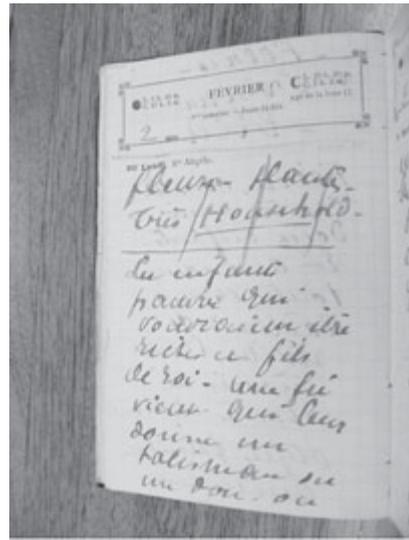
メーテルランクの執筆準備段階でこの手帳以外を利用するということはまず考えられない。それは彼がこの会社の手帳を1886年より使い続けており、草案類がこの手帳以外、まとまった形で残されていないからである。もちろん断片的な草案類も少ないが王立図書館にも所蔵されている。しかしそれらは『マレーヌ姫』発表以前の青年期に執筆されたものが多い。また青年期以外の草稿類も正確な年代の特定まで至っていないし、王立図書館の図書カードにも大まかな分類しかされていない。これらのことを考え、メーテルランクはこの当時手帳のみを用い執筆準備、つまり草案を練っていたとした。

前述したが、この手帳は移動中でも書き込めるように考えた携帯用ノートである。したがって印刷されている日付が実際の執筆を行った日ではない。この考え方を広げ、日付だけでなく、年代も関係ないのではないかと考えた。そこで手帳の年代を一年遡って1904年の手帳 *Agenda 1904* を調査したところ、突然290とナンバリングされた草案を見つけた。これは1905年の手帳の289から続くものであることが、その内容からすぐに判明した。おそらくこれは1905年の手帳に書ききれなくなったメーテルランクがそのあふれるアイデアを書き記すためにとった咄嗟の行動と考えられる。この一年遡るという行動から、それは翌年1906年の手帳が販売されていない時期であり、この『青い鳥』の初期草案が、かなりの早さで練られていたことを証明するものである。

1904年の手帳のナンバリングは何も書かれていない349で終わっている。その他の『青い鳥』に関する草案類は1906年1月号の手帳に4頁を見つけた以外、王立図書館では見つけることができなかった。おそら



Agenda1905 2月19日



Agenda1905 2月20日

FEVRIER	
- Fête -	
<u>1 Oiseau</u>	
- Bleu - 1	
19 DIMANCHE	
1	Féerie, dont le
2	centre serait
3	Deux enfants.
4	Et autour
5	toutes choses -
6	Tâche de
7	révéler l'âme
8	intérieure de
9	toutes choses -
10	objets familiers,
11	animaux

FEVRIER	
2	
20 Lundi	
1	fleurs - plantes
2	<u>Très Household</u>
3	Les enfants
4	pauvres qui
5	voudraient être
6	riches et fils
7	de roi - une fée
8	vient qui leur
9	donne un
10	talisman ou
11	un don, ou

Agenda1905 転写版

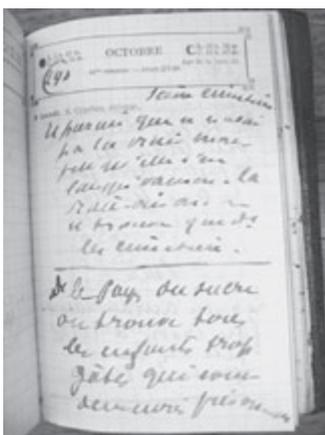
くその後メーテルランクは『青い鳥』の草案のまとめに入ったのであろう。

さて『青い鳥』の草稿の判読、転写と共に、この調査では『青い鳥』に関する資料収集も目的にしている。先行研究において『青い鳥』が1905年の夏頃に執筆を開始されたことは la Fondation de Maurice Maeterlinck の発刊する *Annales* によりわかっている。しかし、この資料以外『青い鳥』の執筆過程を知るものはその後発表されていない。そこでメーテルランクの書簡を調査することで、より具体的にその過程を知ることができるのではないかと考え、彼の1905年からパリ初演の1911年までを調査した。調査を行った

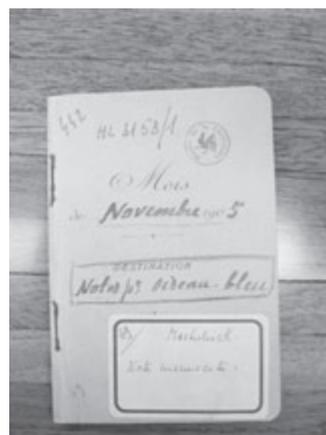
のは『青い鳥』の世界初演を行ったロシア人スタニラフスキーとメーテルランクの書簡とドイツ語訳の際、問題を起こしたプロニコフスキーとの書簡を中心とした。メーテルランクは彼らの書簡で『青い鳥』の執筆状況を説明しており、清書、校正原稿が王立図書館に残っていない現在では重要な手がかりとなる。以下、メーテルランクがスタニラフスキーに宛てた書簡の写真と転写である。なお王立図書館に所蔵されている書簡はオリジナルではない。オリジナルはモスクワのスタニラフスキー美術館に保管されている。またプロニコフスキーの書簡の撮影許可は得ることができなかった。



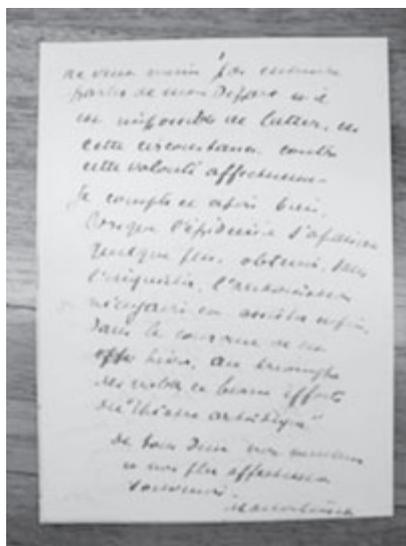
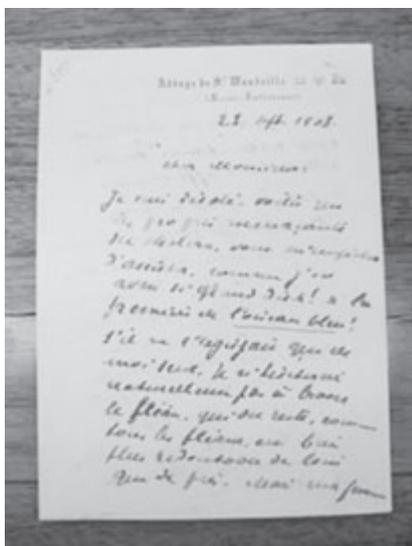
Agenda1905



Agenda1904 10月3日



Agenda1905 11月



スタニラフスキーへの書簡 (1908年9月22日)

22 sept 1908 Cher Monsieur :
 Je suis désolé : voilà que les progrès menaçants du choléra, vont m'empêcher d'assister, comme j'en avais si grand désir! à la première de l'oiseau bleu! S'il ne s'agissait que de moi seul, je n'hésiterais naturellement pas à braver le fléau, qui du reste, comme tous les fléaux, est bien plus redoutable de loin que de près, mais ma femme ne veut même pas entendre parler de mon départ et il est impossible de lutter, en cette circonstance, contre cette volonté affectueuse. Je compte et opère bien, lorsque l'épidémie s'apaisera quelque peu, obtenir sans l'inquiéter, l'autorisation nécessaire et assister enfin, dans le courant de en eff hiver, au triomphe des nobles et beaux efforts du "Théâtre artistique" de tous deux mes meilleurs et mes plus affectueux souvenirs. Maeterlinck

スタニラフスキーへの書簡 (1908年9月18日) の転写

以上が、今回の調査で行った結果である。これら草稿、書簡の転写を中心にそれまで注目されなかった『青い鳥』の生成過程を明らかにし、メーテルランクの描こうとした真の『青い鳥』に迫っていく。

最後にこの調査を行うにあたり、快く許可していただいた王立図書館のA.M.L、特にメーテルランクを専門にしており、1886-1890年までの手帳の転写、出版もしておられるファブリス・ヴァン・ドゥ・ケルクホフ氏に感謝したい。氏は私の申し出を快く承諾してくださり、本来禁止されている草稿、書簡類の複写などを許可してくれたばかりか、多忙にもかかわらず私の転写に目を通し、修正箇所を指摘して下さいました。氏の協力なくしてこの調査が成功しなかったことを付け加えておく。